

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（高学年の部）

タイトル：ふしん者にあってしまった

氏名：池之野 煌悠（イケノノ コウ）

小学校名：鹿児島県 薩摩川内市立隈之城小学校 四年

「あれ、なんかへんだな。」

ぼくは、この日学校帰り友達と別れた後、後ろを歩いてくる人に気づきました。なんだかへんな感じがしました。ぼくはなんとなくこわい感じがしたので、早歩きをしました。すると、その人も早く歩いてきました。家に近づいたので、ぼくは全力で走りました。すると、その人に強い力で手をつかまれました。びっくりしたぼくは、ぼうはんブザーを鳴らしました。

「ビリビリビリ。」

と大きな音が鳴って、それに気づいたおじいさんがぼくをかばってくれました。

ぼくは、家に帰り着くとすぐげんかんのかぎをしめました。心ぞうがドキドキしてとまりませんでした。お母さんが仕事から帰ってくるまでの間、ふとんの中にかくれていました。お母さんが帰ってくると、ぼくはふとんから飛び出して、さっきの話をしました。お母さんは、すごくびっくりしながら話を聞いた後、けいさつと学校に電話をいれてくれました。

次の日の朝、けいさつかんが二人来てくれました。昨日こわい思いをしたので本当にけいさつかんなのか心配になりました。ドラマみたいに手帳を見せるのかと思ったけれど、見せなかったからです。ふしん者の洋服やくつの色など覚えていることを全部はっきりと答えました。けいさつかんは、

「こわかったね。ぼうはんブザーを鳴らせてえらかったね。ぜつ対つかまえるから大じょう夫だよ。」

と、言ってくれました。けいさつかんは、やさしく話を聞いてくれました。そして、

「しっかりパトロールをするから、安心してね。」

とも言ってくれました。ぼくは、そのときすごく安心しました。

学校が終わって家に帰ると、三人のけいさつかんが家で待っていました。朝来てくれたけいさつかんとちがって、青い洋服と帽子の人やスーツを着た人でした。ぼくがふしん者の様子を話すと、はん人の似顔絵をかいてくれました。すごく絵が上手で、ぼくの見たふしん者みたいな絵が完成しました。けいさつかんがたくさんいるとこわいかもと思ったけれど、やさしく話をしてくれてほっとしました。似顔絵までかいてくれたので、必ずぼくのうでをつかんだふしん者を見つけてほしいし、他の子が同じようにひがいにあわないよ

うにしてほしいです。

このことがあって、けいさつかんがぼくのしょう来のゆめの一つに加わりました。ぼくは、もっと勉強や運動をしてぼくの話は何時間も聞いてくれたり、パトロールをしてくれたりした強くてやさしいけいさつかんの人みたいに、みんなが安心してらせるように働きたいと思いました。